

弘前学院大学のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学では、建学の精神「畏神愛人」、および「弘前学院教育方針」「弘前学院大学教育理念」を踏まえた、人間性豊かな人格の完成に努める者、および各分野の高度な専門性を意欲的に追求し、地域や国際社会に貢献できる人材の育成を目指している。この目的、および各学部のディプロマ・ポリシーの達成を図るため、基礎教育科目から専門教育科目を適切に配置するとともに、学修者が主体的な学びを実践できるよう体系的な教育課程を編成している。

○文学部

文学部においては、その教育目標を実現するための科目 — 基礎教育、一般教育、外国語、保健体育、キャリアサポート・単位互換、専門教育 — を設置し、それらの科目を、ディプロマポリシーの達成を図る観点から、以下のように位置づけて配置する。

DP1 の達成に向けて

キリスト教に基づく他者を尊重する精神を学ぶと共に、多様な文化へのキリスト教の影響を学べるように、「キリスト教についての科目」を設定する。

DP2 の達成に向けて

社会を理解し、道徳的な規範に基づく行動を選択できる人間性を養うため、1年次から「キリスト教についての科目」「人間・社会についての科目」を設定する。

DP3 の達成に向けて

現代社会への理解を深めることを通して、将来のビジョンを描き、自らの将来に対する準備を進められるように、1年次から「キャリアサポート科目」を設定する。

DP4 の達成に向けて

自身のキャリアデザインに応じて必要な能力を身につけられるように、1年次から「キャリアサポート科目」を設定する。

DP5 の達成に向けて

課題に対して他者と議論や質疑を重ねることで協調・共同しながら解決する力を養うため、1年次に少人数教育による「基礎科目」を、3年次に「演習」を設定する。

DP6 の達成に向けて

6-1 英語や英語以外の言語を学べるように、1年次から「外国語科目」群を設定する。

6-2 コミュニケーションや、表現・理解に関する知識や技術を学べるように、1年次から当該の知識・技術に関する一部の「専門教育科目」と「共通科目」を設定する。

DP7 の達成に向けて

専門に限らず幅広い教養と人間性を身につけられるように、1年次に「基礎科目」を、また、1年次から「一般教育科目」として「キリスト教についての科目」「人間・社会についての科目」「自然についての科目」「地域についての科目」を、また、「保健体育科目」と「単位互換科目」を、2年次から「教養演習」を設定する。

DP8 の達成に向けて

英語圏と日本語圏を中心に言語・文学・文化の各分野に関する専門的かつ多角的な学びを行えるように、1年次には知識・理解の基となる「基礎科目」を、また1年次から「専門教育科目」を設定する。そして、両学科にまたがる専門性の高い知識及び技術を学ぶ科目を、「共通科目」として設定する。

DP9 の達成に向けて

論理的思考のもとに課題を設定したり解決策を考察したりする力を養うため、3年次・4年次に専門科目の「演習」を、4年次には「卒業論文」を設定する。

DP10 の達成に向けて

自ら課題を設定し、適切な調査・分析に基づいて議論・主張する力を養うため、3年次・4年次に専門科目の「演習」を、4年次には「卒業論文」を設定する。

○社会福祉学部

社会福祉学部においては、その教育目標を実現するため、基盤領域科目、総合領域科目、自由選択科目を設置し、それらの科目を、ディプロポリシーの達成を図る観点から、以下のように位置づけて配置する。

DP1の達成に向けて

- 1-1 基本的な知識を体系的に理解するための基礎を養うために、基盤教育科目群において、基礎領域科目および共通基盤科目を設定する。
- 1-2 建学の精神に基づいた人間性を身につけるため、「宗教学(キリスト教)」「キリスト教社会福祉論」を配置する。また、幅広い視野を身につけるため、「人間科学概論」および外国語科目・海外研修を配置する。
- 1-3 社会福祉学以外の様々な領域を学び、社会福祉学の専門知識を学ぶための土台を形成できるよう「総合領域科目群」において「哲学」「心理学」「歴史学」「社会学」「法学」などを配置する。
- 1-4 健康や運動についての知識を獲得するために「スポーツ科学概論」「ヘルスサイエンス論」「スポーツ科学実技」を配置する。

DP2の達成に向けて

- 2-1 コミュニケーション力、チームワーク力を身につけるために「基礎領域科目群」「共通基盤科目群」「総合領域科目群」「専門実践領域科目群」において各種演習科目を配置する。
- 2-2 情報収集・活用力、レポート作成・発表力、問題発見力を身につけるために「基礎領域科目群」「共通基盤科目群」「総合領域科目群」「専門実践領域科目群」において各種演習科目を配置する。

DP3の達成に向けて

- 3-1 建学の精神に基づく人間尊重の姿勢を身につけるために「総合領域科目群」に「宗教学(キリスト教)」、「専門実践領域科目群」に「キリスト教社会福祉論」を配置する。
- 3-2 対話をつうじて多様な価値観を身につけるために「基礎領域科目群」「共通基盤科目群」「総合領域科目群」「専門実践領域科目群」において各種演習科目を配置する。

る。

DP4の達成に向けて

- 4-1 市民社会のルールを理解し、市民社会の一員として自ら考え、行動できる力を身につけるために、「大学生のためのソーシャルスキル」「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「ソーシャルワーク演習Ⅰ」「社会福祉実習Ⅰ」「精神保健福祉実習」「社会調査実習」などの科目を配置する。
- 4-2 地域社会や人々の暮らしをより良くするよう、市民社会に関与できる力を身につけるために「人間科学概論」「社会科学研究方法」「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」「ソーシャルワーク演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」「社会福祉実習Ⅱ」を配置する。

DP5の達成に向けて

- 5-1 現代社会の生活上の諸問題を把握し、支援対象者の特性に合わせて問題解決の方策を考えられるよう「社会福祉学特講A（子ども・家庭・社会）」「社会福祉学特講B（障害と発達）」「社会福祉学特講C（老化と生体）」「社会福祉学特講D（現代の生活問題）」などを配置する。
- 5-2 現代社会の生活上の諸問題を把握し、社会福祉に関する制度・政策に照らし合わせて問題解決の方策を考えられるよう「専門実践領域科目群」において「社会保障論A・B」「公的扶助論」「保健医療論」「児童福祉論」「障害者福祉論」「老人福祉論」「地域福祉論A・B」などを配置する。
- 5-3 専門分野の知識・技能・態度などを統合的に活用し、自ら設定した課題に対し、解決策を生み出す力を身につけるため、「専門演習Ⅰ・Ⅱ」「社会福祉実習Ⅱ」「精神保健実習」「社会福祉調査実習A・B」を設定する。
- 5-4 卒業後も生活問題の解決に取り組みつづける能力を身につけるため、「ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」「精神保健福祉演習Ⅰ・Ⅱ」「社会福祉実習Ⅰ・Ⅱ」「精神保健福祉実習」「社会福祉調査実習Ⅰ・Ⅱ」「専門演習Ⅰ・Ⅱ」などを配置する。

○看護学部

看護学部においては、本学の教育理念、建学の精神、教育目標を実現するための科目として「教養科目」「看護基礎科目」「看護実践科目」「臨地実習」および「保健師教育課

程」を設置し、ディプロマポリシーの達成を図る観点から、各科目を以下のように配置する。

DP1 の達成に向けて

- 1-1 多様な知識、多様な文化や価値観を理解するため、「人間と文化・社会」「人間と言語」「人間と自然科学」「総合科目」から構成する教養科目を設定する。
- 1-2 教養科目の必修科目として、建学の精神である「畏神愛人」を基に人を尊重する関わりや倫理観を育む「キリスト教概論」「キリスト教倫理」を設定する。

DP2 の達成に向けて

- 2-1 人体の仕組みや病態を理解する専門科目の基盤として「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」の科目を看護基礎科目として設定する。また、看護の基本的な考え方や対象理解を学ぶ「看護学概論」「対象論」「看護過程論」および各対象者への具体的な看護の知識・技術を学ぶ「看護方法論」「看護援助論」の科目を看護実践科目として設定する。
- 2-2 あらゆるライフステージ・健康レベルに応じた看護実践能力を育成するため、4年間を通して多様な場や施設での臨地実習を体系的に設ける。

DP3 の達成に向けて

- 3-1 看護を実践するために基本となる能力、看護ケアの展開能力、看護実践の中で研鑽する能力を修得するために、「看護の実践」「看護の統合」「臨地実習」などを体系的に学修できる看護実践科目を設定する。
- 3-2 各科目の内容に応じた評価方法はシラバスに明記し、「姿勢・態度」「知識・技術」「思考力・判断力」「主体性・多様性・協調性」など様々な視点から学修成果の達成度を確認し、ルーブリック評価も活用する。

DP4 の達成に向けて

- 4-1 専門職業人として成長を続けるために必要な、主体性・継続性を養う科目を初年次教育から配置する。また、3年次には看護研究の基礎を学ぶ「研究方法論」、4年次には自ら設定した研究課題を調査・分析・考察する「卒業研究」を設定する。
- 4-2 大学における主体的学修への学習への転換ができるよう、「基礎演習」や「臨地実

習」を通して自ら探索する姿勢を初年次から育成する。

DP5 の達成に向けて

5-1 チームワークとコミュニケーション能力を育成するために、地域での活動や授業内での共同学習の機会を設ける。

5-2 「臨地実習」では、看護専門職の視点や役割を深く考えるため、実習施設の指導者も参加するカンファレンスや発表会の機会を設ける。